日刊工業新聞

年月日	19	06	05	ページ	21	NO.	

商品トレンド

エチレン

最終週に下落

供給増・ナフサ軟化で下落

米中貿易摩擦 石化品需要抑制リスクも

アジア地域のエチレン市況は、原料であるナフサ価格の軟化と供給量増加などを受けて下落が始まった。誘導品の市況もさえず、米中貿易摩擦による石化品の需要抑制リスクも続いている。

石油化学コンサルティングのクリークス（横浜市中区）によると、5月の最終週に入ってアジアのエチレン価格が下がり始め、トン当たり1000ドルを割り込んできた。原油安を受けて原料であるナフサ価格が下落したことに加え、ストライキの影響で長期化していた韓国企業のナフサクラッカーの定期修理が終わり、エチレンの過剰感が出てきた。

「ナフサよりもエチレンの落ち幅は大きい。ナフサ価格が大きく上がらなければ、エチレンは弱い状況が続く」（クリークスの小川博之代表）という。

今後のナフサ価格は、6月の石油輸出国機構（OPEC）加盟国らによる会合で、石油の協調減産が延長されるかが焦点となる。

米国勢は慎重

一方、米シェールガス由来の安価なエチレン誘導品は、アジア市況の大きなかく乱要因にはなっていないようだ。アジア以外への供給が多い上、米国勢はアンチ・ダンピング措置を恐れて慎重に販売している。

森川宏平石油化学工業協会会長（昭和電工社長）は、「一時的に市況が緩んだとしても、世界需要の増加で、シェール由来品を数年で吸収することは可能だ」とみている。

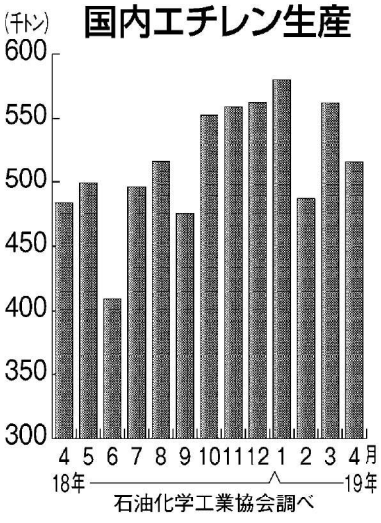
貿易摩擦の影響

最大の懸念事項である米中貿易摩擦の影響がどう出てくるかはまだ見えない。

米トランプ政権は5月13日に第4弾の対中制裁関税を発表。関税対象にパソコンやおもちゃ、衣服も含まれるため、予定通りに発動されれば、石化製品への影響が広範囲に及ぶ。

国内化学各社は4月以降、4―6月の国産ナフサ価格が4万8000円超えとなると見込み、相次ぎエチレン誘導品のポリエチレンなどの値上げを打ち出していた。

ただ、足元では「4万6000円前後で着地するのではないか」（クリークスの小川代表）とみられ、価格交渉の動向が注目される。



無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社